

教科名	科目名	単位数	授業形態	系統	履修年次
理科	生物基礎・生物	4	選択	理系	2

教科書（発行所）	生物（数研出版）
教科書以外の教材	1 ニューステージ 新生物図表（浜島書店） 2 セミナー生物基礎+生物（第一学習社）

目 標	1 生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにすること。 2 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養うこと。 3 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養うこと。			
	学期	学習事項	学習内容	考查等
学習計画	1 学期	【生物基礎】 第1章 生物の特徴 第2章 遺伝子とそのはたらき	顕微鏡観察の基本操作 ミクロメータによる測定 生物の多様性 生物の多様性・共通性とその由来 遺伝情報を含む物質—DNA DNAの構造 遺伝情報の複製 遺伝情報の分配 遺伝情報とタンパク質 タンパク質の合成	期末考查
	2 学期	第3章 ヒトの体内環境の維持 第4章 植生の多様性と分布 【生物】 第1章 生物の進化 第2章 細胞と分子	体内環境の維持 血統濃度調節のしくみ からだを守るしくみ—免疫 生態系の成り立ち、生態系のバランス、生態系の保全 生命の起源と生物の進化、遺伝子の変化と多様性、遺伝子の組み合わせの変化、進化のしくみ、生物の系統と進化、人類の系統と進化 生体物質と細胞、タンパク質の構造と性質、化学反応にかかわるタンパク質、膜輸送や情報伝達にかかわるタンパク質	実力考查 中間考查 期末考查
学習計画	3 学期	第3章 代謝 第4章 遺伝情報の発現と発生	代謝とエネルギー、呼吸と発酵、光合成、 DNAの構造と複製、遺伝情報の発現、遺伝子の発現調節、発生と遺伝子発現、遺伝子を扱う技術	実力考查 学年末考查
授業の受け方・学習に向けてのアドバイス等	1 提出物・宿題は期限をきちんと守る。 2 用語を単独で「暗記」するのではなく、生物現象を全体的な流れの中で「記憶」していく。 3 ノートは余白をとりつつ丁寧に大きく書くこと。黒板に書かれないこともメモすること。 4 生物現象は図を描いて「記憶」していくこと。 5 予習を行う必要はないが、授業に集中し、復習をしっかりと行うこと。			

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度	
評価規準	使える	生物や生物現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 生物や生物現象に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	生物や生物現象の中に問題を見だし、探求する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象について関心を持ち、意欲的に探究しようとするとともに、生物の共通性と多様性を意識するなど、科学的な見方や考え方を身に付けている。
	できる	生物や生物現象について、他の事項と関連付けて理解している。 学習内容の特質に応じた探究の方法を習得している。	生物や生物現象の中に課題を見だし、解決するための実験計画を立て、その結果を予測している。自らの予測について検証している。	生物や生物現象の中に探究活動の課題を探ろうとする。 生物や生物現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりする。
	分かる	生物や生物現象の概念を理解するための重要用語と、その用語に関わる知識を身に付けている。 観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	知識・技能を活用して、課題を解決するための方法に気づき、説明している。	知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身に付ける過程において、粘り強く学習に取り組んでいる。
評価の方法	授業時の観察、定期考查、課題確認テスト（小テスト）、課題レポート、週課題、授業に臨む姿勢や意欲及びパフォーマンス評価・自己評価を総合的に評価します。 いわゆるペーパーテストのみの点数がすべてではありません。身につけるべき能力をまんべんなく評価します。よって、テスト以外の普段の取り組みも評価の対象になります。知識・技能にもとづいた思考力・判断力・表現力も問うので、普段から、本質的な力を磨くようにしてください。			